

第4回滑川市まちづくり共創会議開催結果

開催日時 令和4年12月19日(月) 17:00~19:00
会場 滑川市役所3階大会議室(委員は原則オンライン参加を依頼)
出席者 委員13名、藤野英人特別アドバイザー、
市長、副市長、総務部長、企画政策課(デジタル化推進担当課・事務局)

	委員	備考
1	星名 照彦	座長
2	廣瀬 淳	副座長
3	福井 信英	
4	清水 義彦	
5	土肥 薫	欠席
6	石田 拓人	
7	深井 あゆみ	欠席
8	樋口 幸男	
9	桶川 高明	
10	砂子 典章	
11	金川 奈那美	
12	浦田 結那	
13	長瀬 めぐみ	
14	由井 千尋	
15	山内 大河	

議 事 デジタル化とスマートシティについて

ポイントごとに自由に意見を交わしていただいた。内容については別紙のとおり。

【議 事】 デジタル化とスマートシティについて

座長

それでは第4回のテーマ、「デジタル化とスマートシティ」についての対話を始める。委員の皆さまは事前に資料へ目を通してきておられるが、今回はあまり馴染みがない方もいる分野なので、最初に担当課より取り組み内容について簡単に説明いただきたい。

麻柄係長

それでは資料2の滑川市のデジタル化の取り組み状況について、いくつか主だった取り組みを中心にご説明させていただく。

まず資料の3番目であるが、DX推進本部を6月に立ち上げて各種のデジタル化・DX施策を進めている。DX懇話会も新たに設置し、各分野を代表される方に、今年度中に策定する予定のDX推進計画や、各種デジタル化施策に対するご意見をいただいている。

それから5番目は、行政手続き等のデジタル化というところで、各種のオンライン申請やオンライン予約の対応を推進している。ロゴフォームというシステムを導入し、各種イベントの予約や、検診等の予約、水道の開閉栓の申込、アンケートといった幅広い手続きに利用されている。特に健康診査、がん検診等の検診では、6月からオンライン申請の受け付けを始めて、すでに利用が1,000件を超えるなど非常に幅広く利用されているということである。

6番目は、今回のZoom会議のように、遠隔地からの相談等をオンラインで相談に対応しているところである。特に、ご家族が遠隔地に住んでおられる高齢者に関する相談などで利用されている。

少し飛んで、2頁目の16番目である。町内会のデジタル化、特に町内会運営アプリの導入に関して強く推進している。特に、県内では呉西の方の地域を中心に「結ネット」という町内会の運営アプリの利用が広まっている状況である。どういうものかと言うと、これまで各町内会の運営は、回覧版などを紙で回して情報を共有するという形が主流だったと思うが、新型コロナ対策で接触を避けるとか、いつでも情報を見返せるように、こういうアプリを通じて回覧版の情報を発信するものである。また、町内会の会議もアプリで採決をするという機能がある。これらを通じて、町内会役員の負担軽減や、情報の素早い周知・共有という点からも推進していきたいところであり、今年度2つの町内会で実証中である。今のところ来年度からは、市内全域に拡大していきたいと考えているところである。

17番目の地域社会のデジタル化に関して、スマホ教室の開催ということで、こちらは樋口委員の多大な協力をいただいて、昨年度・今年度と市内の全地区で、高齢者を対象としたスマホ教室を開催している。市のデジタル化の取り組みへの効果を高めるには、スマホを利用できる方を増やしていくことが非常に重要となっており、樋口委員には初心者向けのスマホ教室を実施していただいて、各地区で普及を進めているところである。

ただ、開催回数も限られているということで、新しい取り組みとして18番目である。スマホ教室の携帯ショップ等との連携を、来月から実施しようと考えている。こちらはスマホを持たない方でも、身近な町内会でスマホ教室を開催することで、気軽に、幅広い人に参加していただいて、よりデジタルデバイドの解消に向けて取り組みを進めていきたいと考えている。

それから3頁目の29番目であるが、教育分野のデジタル化に関して、プログラミング教室の開設支援を令和2年度から実施している。GIGAスクール構想で、1人1台タブレット端

末を利用して教育を受けるといった形がコロナを機に広まっており、端末を利用するだけでなく将来のデジタル人材の育成という点でも、学校外でプログラミング教室を受けられる場が非常に重要になってきている。市でも開設を支援しようということで、今地域において3つの団体が、こうした教室を開催している状況である。

30番目の、学校保護者間の円滑な連絡体制の構築ということである。学校の先生たちが非常に忙しいというのは有名だと思うが、これまでは欠席の連絡を、保護者が朝の決められた時間に電話で連絡し、教室から職員室まで降りてきて先生が連絡を受けるといった、非常に保護者にとっても、先生にとっても負担のある業務となっていた。これを少しでも改善し、双方の負担を軽減できないかということで、来年度からアプリ等を通じて容易に欠席連絡ができるという仕組みを今、導入する予定としている。

それから36番目である。情報発信の部分で、多くの市町村でLINEの公式アカウントを設けているが、当市でも6月からLINEの公式アカウントを開設して情報発信しているところである。ただ、現在のLINEの機能は情報を一方的に発信するのみで、友達登録していただいている方が、必要な情報を選択して受信することができないため、そういった部分の機能の拡充や、来年度からは更にLINEでもオンライン申請を受けたり、チャットボット、健康ポイント対応など、幅広い利用ができないか、今検討しているところである。

4頁目の44番目は、市役所の内部事務の効率化ということである。RPA——ソフトウェアによるプロセス処理の自動化の部分だが、各種の申告書や申請書などをAIの搭載されたOCRで読み込み、それをAIで文字に変換する処理を行った上で、システムに自動的に登録する。そういった仕組みを構築して、職員の事務負担の軽減などを図っていけないかということで実施している。10月にいくつかの業務を追加で実証実験し、今後さらに拡大できないかと考えている。

それから46番目のペーパーレスの推進ということで、会議・打ち合わせのペーパーレス化を強力に推進しているほか、市役所内部の決裁処理なども今後はすべて電子化していけないか、来年度からの取り組み拡充について現在検討中である。

ご説明したようなものは殆どデジタル化に関する部分であるが、今後はデジタル技術を活用しながら、民間事業者や高等教育機関、市民の皆さんなど、幅広い事業主体と連携しながらデータを活用し、新たなサービスを創出していけないかということで、スマートシティの取り組みも検討していきたいと思っている。スマートシティといっても色々な分野の取り組みがあり、すべてについて力を入れてやっていくことは難しいので、当市に合ったスマートシティ施策というものについても、本日ご意見をいただけたらと思っている。

代表的なサービスとして良く挙げられているものは、交通MaaS(Mobility as a Service)や、防災面での利用である。防災面に関しては当市の方も、センサーを活用して河川の水位を測定し、危険情報を集めた上で、それを例えばダッシュボードなど市民の皆さまに分かりやすい形で公表していけないか検討中である。そのような取り組みも今後、実証としてやっていければと思っている。

それからインフラの管理においては、例えばドローンによって橋梁の点検をしたりなどの取り組みをされているものがある。また、観光事業や、健康・医療への活用。健康面では先ほど説明したLINEを使ったポイントの管理など、何かそういうものがないかと考えている。

農林水産分野においても、勿論ドローンの利用はされているが、当市の方でも水門にセンサーをつけて遠隔で利用するという仕組みを実施されている事業者もあり、そういったものの活用なども考えられる。その他にも環境エネルギー面や、防犯面でカメラなどを活用した子どもの見守り、現在滑川市社会福祉協議会でIoT電球を使った高齢者の見守り施

策なども実証的にやっているもので、そういった取り組みなども今後拡充というのは考えられる。都市整備の分野で、ドローンで運送などを実施している団体もある。このように幅広い取り組みが先行団体では実施されているので、当市にこういったサービスを実装していけば良いのかという部分でご意見をいただけたらと思う。

座長

滑川市で実際取り組んでいるもの、今後取り組みたいというものについて、ご説明いただいた。本日の議題である、1番のデジタル化の施策についてと、2番の滑川スマートシティに関しましては、市の説明の中でもあったように関連があるので、両方を含めてご意見とご提言をお聞きしたい。

委員

色々なことに取り組みされていて凄い良いと思ったが、その上で逆に、取り組み状況の例えば17・18番のスマホ教室、高齢者向けのスマートシティ。データを使う上で、やはりスマホやICT機器みたいなものをどれだけ使えるかというのは重要になってくると思っているが、慣れていない高齢者にどのように使っていただくかというところがやはり難しい。例えばスマホ教室などに参加される方は、多分スマホの利用などに対してポジティブに考えておられる方が多いと思う。

逆に、今のままが良いと言うか、ICT機器の利用に対してネガティブな方々に、どのようにしてICT機器を使っていただくのか、スマホの使い方をどうやって教えていくのかというところが、やはり少し課題なのかなと思った。

委員

前提としての確認だが、デジタルトランスフォーメーションを推進していくというのは凄く良いことであるし、実際にやっているのだと思うが、「一番の目的は何か」というところを確認しておきたい。コスト削減なのか、業務効率化なのか、市民の利便性追及なのか、市民の政治参加というか「もっと町に興味を持ってもらいたい」みたいなところなのか、幾つか複数の目的があると思うが。

どのような優先順位でデジタルトランスフォーメーションを実行されていくのか、市に伺いたい。

座長

ありがとうございます。

今のご質問に関して、市から回答をお願いしたい。

麻柄係長

私の個人的な思いの部分もあるかもしれないが、まずデジタルの普及。市民や事業者が、デジタル機器を使って豊かな生活を送れるようになってほしいという、「人のDX」の部分、特に進めていきたい。

それと併せて、行政手続きを便利にする、市民サービスを向上させるという部分について取り組んでいくことで、最終的には「まちづくりのDX」——データの活用や、幅広い主体と連携して新しいサービスを創出する、それによって市民の豊かさを向上させるというところを、一番の目的にしたいと考えている。

座長

補足なども含めて、市長にもお伺いしたい。

水野市長

今ほど麻柄係長が言ったとおりである。

デジタルという道具を使いながら、滑川市の人材育成に関して DX という手法を使ってどこまでできるか、そのためには何をすれば良いのか、一番はそこだと考えている。その辺りも議論しながら進めていければと思っている。

委員

ありがとうございます。

最終的に DX を通じた市民の人材育成というところがゴールであるとしたら、今の施策は少し総花的と言うか、あれもこれもやっていて、リソースが足りないのではないかという印象を受けている。施策は今の5分の1くらいに絞っても良いという気がする。「絞るけれどもしっかりやる」というやり方の方が良い。放っておいたら、「あれも、これも」と施策を増やしていきそうな感じがする。

何から始めるかというところでは、これは個人的な願望も入っているが、「市役所職員が凄く先端的な ICT 技術を使いこなしている」というようなことがスタートとしてできれば、市民は後でついてくると思う。行政の内部から変えていくのが、一番変え易い部分でもあると思うので良いのではないかと思う。

個人的には、市からの連絡の LINE を良く見ている。便利だが、何人くらいの人が購読しているのかは分からない。例えば、市からの連絡に返信や意見する仕組みがあり、それがオープンになっているだけでも、市民の情報リテラシーに対してのファンみたいなものが上がると思う。

そういった一つ一つの施策の深掘りに関して弱い気がする。「とりあえず、やりました」みたいな感じになると勿体ないので、減らして、絞り込んで、市民の反応もオープンにしていきながらやっていくという、そういう感じの方が良いのではないかという気がする。それから、ばいにゃこさんの活動を僕は凄く良いと思っている。どうしても絞り込んだら取り残される人が出てくると思うが、取り残されないような仕掛けもセットで考えられているっていうのは素晴らしいと思った。

藤野特別アドバイザー

今日は、別の予定で30分しかいられないので、一言お話をして退室させていただく。

まず DX の取り組みを見て、凄いという風に思った。総花的という批判も勿論あると思うが、少なくとも項目で「何が必要であるか」「議論しなければならないのか」というところが、しっかりと見えて、非常にレベルの高い政策だと思った。

その中で重要だと思っているのは、先ほども委員からあった職員の話である。富山県の成長戦略会議で、僕自身が富山県の職員に対して全く同じことを思った。富山県の職員の将来、幹部職員として必ず富山県を担うだろうという若手から中堅のキーパーソンが、DX についての理解が非常に熱い必要がある。そのためにはやはり教育が必要ではないかというところで、シンガポール大学を紹介し、シンガポール大学の精神的な地方公共団体における DX 化というようなテーマで、昨年、授業を展開した。かなりそれでレベルアップしたり、目線が上がったというところもあるので、滑川市の「特にこれは」という人を数名、一緒に勉強させてもらうというような機会を設けるだけでも、良いのではないかと思う。

別にそれだけではないと思うが、この DX を進めていくという面で見れば、やはり担い手の人のレベルと目線が高いということが重要だと思うので、その部分のところには是非お金をかけていただく。そうすると今あった素晴らしい政策も、その中で優先順位をつけながら、どういう政策をすると効果が高くて、それで市民の満足度が高いのかということがスムーズにいくと思うので、是非そういう点も考えていただきたいと思った。

本当はスマートシティについても言いたかったが、他地域の事例もあると思うので、是非ベストプラクティスを見て、知見を高めていくことが重要だと思う。

言い逃げみたいになったが、今日はどうもありがとうございました。

座長

どうもありがとうございました。

今の藤野特別アドバイザーのお話を踏まえて、他に何かご意見・ご提言のある方はあるか。

「絞る」という考えもあるが、逆に「もっとこういう施策があった方が良い」とか、具体的にご意見をいただければと思う。

委員

他の審議会でも進捗状況などの報告がある。大枠は分かるが、逆に細かい部分のリクエストは意外に吸い上げていただいていないのではないかと考えている。

例えば、過去に何回か大小含めた市内のイベントカレンダーのようなものの作成をお願いしたことがあったが、「それは民間で」という感じだった。先ほどの LINE を使った情報発信というところで、今はこういうツールが普及してきたということは、そんなに難しいことではないと思うし、町の活性化にも繋がる。大なり小なりあると思うが、具体的な話も少し拾っていただくと良いと思う。

12 番の行政手続き等のデジタル化で、ワクチン接種証明のコンビニ交付の記載もあるが、基本はアプリで取れているので、すでに達成しているものもあると思う。少し細かい部分はこの場でなくても良いので、「これがあつたら良いな」というようなことがあると、多分他の委員も話し易いという気がする。

座長

何か細かいところで、「実際にこういう経験をして、もっとこういったものがデジタル化されたら良い」とか、具体的に何かあるか。

委員

私は住所移動等の手続きを全部、紙でやったので、それがデジタルで全部済むのであれば凄く有難いと思う。滑川はやはりベッドタウンだと思っている。暮らしている人の流動がどうなっているのかを私は全然把握していないが、農業の部分や子育ての部分など、将来的に広域連携が図られていったら、人の行動に合わせて、どこの市町村でも情報が入るとか。あくまでも将来展望だが、そうなればより便利だと思う。

今こんなにやっていること自体を全然知らなかったもので、特に今の段階で希望はそんなにない。利便性を享受している人が多ければ良いと思うし、そうでないなら、やはり情報発信の必要性はあると思うが、その判断はつかないというのが正直なところである。

座長

私も実際にこれだけのことをしていたのは知らなかったもので、本当に言われたとおりだと

思った。

委員

寺家小学校の PTA では、クラウドサービスを去年から使っている。PTA は子どもたちのための活動だが、夜に子どもたちを犠牲にして学校に集まるということが今まで続いていたからである。大体年間 12 回から 15 回くらい、夜 7 時頃から 9 時頃まで集まって話をしてきた。最近共働きの夫婦が増えてきたので、親が 7 時に帰って子どもが 9 時に寝るとしたら、子どもたちと接する時間は 2 時間しかない。その貴重な時間を確保してもらいたいということがあって、なるべく学校に集まらずに、クラウドサービスでデータのやりとりをするようにした。田中も今年から始められたと思うので、寺家と田中の 2 つの PTA でデジタルトランスフォーメーションをしているという状況である。

そこで感じることを言うと、年間大体 12 回から 15 回集まっていたのが、2~3 回に減ったので、確かに時間の拘束は大分負担を減らせたと思うが、その代わりに、PTA の場を通じた親同士の交流というものが少し減ってきていると思う。PTA は親同士の交流も目的の一つだとは思いますが、今は LINE など色々なコミュニケーションを取る手段ができていますので、別のところでそれは補完できていると思う。だから、PTA 役員となっている親御さんが子どもと一緒に過ごす時間が減っているという課題に対して、クラウドサービスを使って、子どもとの時間を増やすという目的を達成するという形で、課題解決の手段にしている。今、市役所の方でも色々と施策を取っていると思うが、色々な課題がある。例えば、山手から市役所まで、手続きをするために 30 分以上車で運転しなければいけないのは遠い。それがコンビニで発行できれば、5 分で終わり、負担が減る。

だから、まずは自分たちの今の課題をしっかりと認識する。それで現状どんな技術があるかアンテナを張り巡らせて、「じゃあ、こんなことになるよね」というような、この計算式をずっと意識し続けていかないといけないのではないかと。先ほど藤野特別アドバイザーがおっしゃったように、やはり人材への投資という部分が DX において、一番大事になってくると思った。

座長

デジタル化するには先ほどスマホのスマホ教室とか、色々あるんですけども、「こういったものをデジタル化した方がよいよ」とか、何かあれば良いのではないかと。思うのだが。

委員

そこまでデジタル化で困っていることはないもので、何とかして欲しいものはない。

委員

スマホ教室は非常に良い取り組みをしていると思うが、まだまだ参加している高齢者の絶対数が少ないのではないかと。だからまずは、スマホで Web 会議をできるような状態にして、それで教室ができれば、もっと良くできるのではないかと。資料にもあるが、「携帯ショップと連携して」というところで、先ほど事務局の方からはスマホを持たない方に対してということだったが、私が聞いたのはそのキャリアを使っている方だけを対象とした偏ったサービスだった。ばいにゃこ村さんのスマホ講座は、非常に人当たりもソフトで好評だと聞いているが、ボランティア精神満載でやっているということも聞いているので、数をこなすのに少し負荷がかかり過ぎではないかとも思う。まずスマホを DX に向けて使いこなせるというところを取り上げていただいて、ある程度の優先順位みたいなも

のを少し考えていただいた方が、進捗状況も分かり易いし、優先順位が違うということに関しても、こういう場で議論ができるのではないかと思った。

委員

私はデジタルネイティブではなくてアナログ人間なので、DX と言うと、どこか「勉強しなければいけない」という痛みというか、義務感というか、仕事になってしまっているところがある。

雑談での話であるが、滑川市は「何も始まっていないから、凄くやりやすい」と言われた方もいる。「先行していたら、自分たちのやり方を変えられないし、そこには痛みが発生する。まだ何も始まっていないような状況だから有望なんだ」という話をされて、なるほどと思って聞いていた。だから、沢山のリストがあり、凄く進んでいるということに、まず驚いた。それが一つ目の感想である。

二つ目は、この DX の流れは一過性で終わらないと思う。これからずっと、これをベースにまた更に進化していくものだと思うので、10 年後に社会人として活躍する今の小中高生を育てるといふ、そういう流れもとても大事だと思っている。僕はその子たちのアイデアを凄く知りたい。

今はプログラミング教室やコンテストがあるが、2～3 年前の成果物と今の成果物は全く違う。とても進化していて、大学生がやっているようなことを小学生が提案するというのを見ています。僕たち大人が苦しんでいるこの DX 化の高いハードルを、子どもたちだったら「どう活用するんだ」「どうやって更に良くしていくんだ」というような視点を、どんどん募集するような、アイデア大会と言うかコンテストと言うか、探求活動を今、盛んにやっている。先生方も試行錯誤しているが、市役所が出前授業をしに行くと、「今 DX 化でこんなことをやっているんだけど、君たちの視点で更に効率の良いもの、それから今足りないものは何か？」というような感じで、どんどん革新的なアイデアを募集していくような、新たな流れがあっても良いのではないかなと思って聞いていた。

勉強ではなくて、自分がやりたいことを、そしてそれが地域貢献・社会貢献、10 年後の滑川市のために、というような視点を持つ、そういう機会をどんどん作っていったら良いのではないかと思った。

委員

結ネットなどツールだけ用意してもアカウントだけ作って利用しない人も多いと思う。そこに面白いコンテンツを創る。例えば映画見放題とか、時代劇見放題とか。ツールを利用する面白さ、意味みたいなものを同時に用意することが大事だと思う。

また、ばいにやこ村の高齢者向けスマホ教室は現在累計で 100 名くらいの参加になっている。好評な理由は緩く教室をしているからだと思う。高齢者にポケモン GO を教えると楽しんでいただける。高齢者が使っても面白いアプリは沢山あるので、ポケモン GO とか脳トレアプリなど、そういうものを市を挙げて推奨していけば良いと思う。

座長

この滑川の状況や実態と今後の取り組みというものと、東京都との違いなどがあったらお聞かせいただきたい。また、「こういったものがあつた方が良い」とか、「進め方はこうした方が良い」とかのご意見があれば聞かせていただきたい。

委員

世田谷区は東京都 23 区の中でも少し遅れている方ではあるが、他の進んでいる区に比べても、滑川市は凄いと思った。今は途中のものや、これからというものもあるかと思うが、本当にこれが全部できたら、東京よりも進んでいて魅力的だと思って話を聞いていた。

「もうやっている」という話であれば恐縮だが、いくつかお話を伺っていて思ったことがあったのでお話したい。

まず、「オンライン診療サービスは滑川市にあるのかな？」と思った。東京ではオンライン診療を受けられる病院が結構ある。子どもを育てていると、例えばちょっとした手荒れで皮膚科に行きたいと思っても、なかなか子どもを預けられなかったりする。だから、オンライン診療でその診療を受けて処方箋だけもらって、子どもと処方薬をもらいに行くというものがある。そういうものがあれば、病院になかなか行かない人や、そもそも行く足がない人にとっても良いのではないかと思った。

2 点目が、滑川市に帰省すると毎回電波が悪い。家の Wi-Fi を使ってもあまり電波が良くないので、そこがフラストレーションを感じがちな点である。もう少し Wi-Fi の環境が全体的に良くなればいいなという個人的な思いがある。

最後にもう一つ。これは私が今、凄く直近で感じている課題であり、最近、世田谷区の人とも話をしたばかりだが、ファミリーサポート事業という、子どもをボランティアで地域の人が安価で見えてくれるサービスがある。滑川市も社会福祉協議会が恐らくやっていると思う。他にも保育園がやっている一時預かりサービスがあると思う。でも、ホームページを見ると、ファミリーサポート事業に関しては、申請や面談等で「預けられるようになるまで 1 ヶ月以上かかります」と書いてある。保育園の方も、書類を書いて提出して面談をして予約をしてという、凄くステップが長いのが実態である。やはり共働きだとか、両親に気軽に頼れない関係性だったりする人が増えてきている中で、凄くここもストレスポイントになっている。全国的に課題感としてあるらしいが、滑川市ももし余地があれば、そういう子どもを預かるためのサポートというか、プロセスの短縮化をされたら良いのではないかと感じた。

委員

私は知識不足なもので。今回この会議にあたって、もらった資料は凄いが、ここに普通の人は辿り着かない。「これだけのことができる」ということが分かって、そこから例えばオンライン申請などにそのまま入っていける頁があれば良いと思った。折角これだけやっているのに、私も全然知らなかった。今回初めて見て、でもこれは「どこでどうすれば、こういうサービスを受けられるんだろう」というのは、やはり分かっていない方が殆どだと思うので、ここにもっと簡単にアクセスできるようになると有難い。紙ベースでも凄く助かるし、紙ベースではなく、これと似たようなものからそのままアクセスできるなどのものがあると良い。

後は、色々されていると思うが多言語化である。外国人の従業員がいると、やはり必要となる行政手続きは結構ある。日本人と一緒に付き添って色々やるということが多くなるもので、そこに多言語化というものがもっと分かり易くあって、それがオンラインでできるとなると、凄く助かるのではないかと感じた。

座長

仕事に関してのデジタル化などで求めているものはあるか？

委員

仕事に対してというのは、あまりない。色々な話が出れば「それは便利だね」という話になると思うが、私たちの仕事では残念ながらまだまだの部分が多い。

何だかんだ言っても紙が出て助かる部分も実際あるもので、まだまだそういうところに対する知識は足りない。オンラインで済むところと、紙ベースであった方が良いところというのは、まだまだ混在している状態だと思う。だからその中で、一気に進めるというよりも、皆さんが少しずつ分かり易い状態に入っていけるような、頁を開いた時に紙で読んでいるようなところから、そのまま入っていけるようなものだと、色々な人にとって便利だろうと思う。

仕事という面に関して言うと、他から持ち込まれて「こんなに便利なことがあるんだね」みたいなことでしかなくて、なかなか自分の中からそういうものが生まれてくるということとはあまりないのが現状である。

委員

取り組みが凄いという話を先ほどから色々な委員がされたと思うが、これだけのことをやっているということ、やはりアピールした方が良いのではないかと考えている。

でも、これをアピールする上で、例えばこの資料の26番目のI・T電球による高齢者の見守りの実施について、取り組みをオープンにしていく上で、「SIM一体型のI・T電球の何が凄いのか」というところがオープンにしても分からなかったりする。他にも、市役所業務ではRPAを使っていたり、電子決裁システムの導入を予定していたりするの、例えば「今までの決裁システムがこうで、それが電子決裁システムを導入して、こうなりました」という、先進的なことをやっていることをアピールしていかないといけないと思う。

すでに発信されているかもしれないが、例えばLINEアカウントなどで発信していけたら良いのではないかと考えた。

座長

その情報発信を色々とするということに関しても、やはり環境だと思う。少し話がずれるかもしれないが、滑川市のWi-Fiの状況というのは、どういう状況なのか？Wi-Fiは、現在、全市を網羅している訳ではないのだと思うが、市から回答をいただけるか。

麻柄係長

Wi-Fiの状況については、資料2の13番目をご覧いただきたい。

公共施設のWi-Fi整備ということで、これまで市では、まず観光施設、交流施設を中心にWi-Fiを整備してきた。それから、災害時に避難施設となるような拠点においても、情報の収集が重要であるということで、総合体育センターや各地区公民館、学校などでもWi-Fiを整備した。また、メリカについてもWi-Fiを全館に整備して、今すでに使える状態になっている。

Wi-Fiの整備は色々なところから要望があるが、スマホの通信費自体が以前に比べてかなり安価になっており、それで高速の通信が利用できるという面がある。どこにでもWi-Fiがあれば良いのは間違いないが、市としてどこまで整備していくのかを見極めていくことも必要だと思っている。

まずは現在、整備されている施設で、より繋がりやすく、使いやすいように、Wi-Fiを利用できることが大事だと思っており、今月にはこれまで「遅くて繋がりにくい」という話があった市民交流プラザのWi-Fiのアクセスポイントを増やし、通信機器もこれまでのもの

より高速化したという状況である。

今後も必要なところは、より使いやすいように検討していきたいとは思っているが、基本的には個人で利用する部分と、公共施設で整備する部分を見極めながら、引き続き検討していきたいと思っている。

座長

他に何かご意見・ご提言はあるか。

委員

聞いていて、僕自身もそんなに困っていたり、不満を感じていたりすることは特にはない。僕もあまり得意な分野ではないので、革新的なアイデアとかもない。こういうものは、そもそもこういうものがなかった時代から、より便利にしていくツールだと思っている。話を聞いている感じでは、滑川市が凄く良い感じでやっているようなので、この感じで進めていくのが凄く良さそうだと思った。

委員

学校で言うと、やはりノートとかは資源の無駄と言うか、紙の無駄ではないかと思っている。他の学校はタブレットでノートを取ることができたりもしているので、そういうのはもっとできたら良いと思う。私の高校ではタブレットは支給されていても、ノートとしては使われていない。板書は自分でノートとペンを用意してとるので、正直、本当に無駄だなと思っている。

座長

一応、タブレットは支給されているが、使い勝手が自分たちが求めているものには達していないということか。

委員

はい。

委員

本当にその通りだと思う。資源の無駄は少し言い過ぎかもしれないが、タブレット1台あればどの教科でもノートなどをとることができるし、課題もいちいち紙で印刷する必要もなく提出ができるし、教科書も見ることができる。タブレットが1台あれば解決してしまうと、ずっと思っていた。

でも逆に言うと、現状で「ノートに書く方がやりやすい」と思われているから、「デジタル化について、何か問題や不満に感じている点はないですか？」と訊いた時に、「今はない」と言われるのだと思う。やはり一旦、便利さなどを知っていただくことが大事なのではないかと思っている。

紙に実際に書いた方が分かりやすい部分も確かにある。だから、「全部が全部、紙」「全部が全部、デジタル」ではなく、「ここはやはり紙だ」とか、「ここはデジタルの方が絶対にやりやすい」という着地点のようなものを考えながら、徐々にペーパーレス化などを進めていく必要があると思う。

今の中高生など若い世代は、もっと皆がタブレットを使えた方が良いと思うので、そういった環境づくりも必要ではないかと思う。

座長

藤野特別アドバイザーがいらっしゃらないので、もし市の方から何かあれば、聞かせていただきたい。

水野市長

貴重な意見を沢山いただき、ありがとうございます。

私が一番ズキッときたのは、「何も始まっていないからやりやすい」。正にそのとおりかなと思っている。

このデジタル化が一過性のものではないということで、小中高生をいかに育てるか、小中高生のアイデアを拾い出す、今足りないものを、革新的なアイデアというものを小中高生からもらえる。そのような仕組みを是非とも来年度以降、とりあえず一つは考えてみたい。

現在進めているデジタル化の取り組み状況をエクセルにまとめた表については、確かに市民の方がここに辿り着くことは、今現状ではできない。でも滑川市では今デジタル化に向けて、陰ながらこれだけのことをやってきた。これは大変大きな成果であると思っている。これをまた伸ばしていきたいし、情報発信をしていく。そんなことも必要かと、聞いていて思った。

私はいつも「まちづくりは人づくり」と言っている。人材、人をどうやって育てていくか。それに尽きるような気がするので、藤野特別アドバイザーからアドバイスがあった、県のキーパーソンの育成、それを市の職員でキーパーソンを選んで、市民の満足度を高めるためにも、その優先順位をつけながら、スマートシティなどの知見を深めていくことも大事だと思っている。

ちょっと話が外れるかもしれないが、私は自分の Facebook で今、滑川市の公式 LINE アカウントの友達登録の数を増やそうと思って PR している。LINE の公式アカウントは私なりの目標として友達登録 1,000 人を掲げている。2・3日前に Facebook に上げた後には 50 人くらい増えて 850 人くらいになった。後 150 人増やし、目標 1,000 人を達成したいので、皆さんからも拡散いただきたい。

来年度にはセグメント機能をつけて自分の欲しい情報だけを取り出したりできるようになる予定である。まずは人に見ていただかないと始まらないので、友達登録に、皆さんの拡散のご協力もお願いしたい。

委員

市長がまとめられた後に発言するのは大変恐縮だが、私が「何も始まっていない」と話をしてしまったので、少し責任を感じている。決して批判的に話したつもりはなかった。

今日、僕が一番ショックを受けたのはノートについて「紙が無駄」というところだった。やはり僕とは考え方も違うし、世代も違うんだなということを凄く痛感した。

でも、これは凄く大事なところだと僕は思っている。それで先ほど「小中高の提案を」という話をした。

今日のこの共創会議の中でも、DX の捉え方や定義づけについて皆さんで若干ずれているのが見えていると思う。勿論ケース・バイ・ケースではあるが、今回はそれを一つにする必要はなく、自由に自分のイメージの DX について、何ができるかについて話している。そういう場に学生にどんどん入ってきてもらって、市の DX 化は向こう 10 年を見据えて、若い人たちの「楽しい」とか「これだったら便利だ」と言うような意見を取り入れてほし

い。義務感や仕事ではなく、「滑川市のこれからの10年は明るい」ということに繋がるような、若者の意見をどんどん取り入れていくような流れがこの中から出てきたら面白いと思っていた。

座長

まだ本日は時間があるが、もし他に話したい方やご意見のある方があったら、是非お聞きしたい。このDXに関しては、本当に自由に自分の思ったことを言っていただけて結構なのだが、如何だろうか。

柿沢副市長

市長が言われたとおりだが、「何も始まっていない」という言葉は、私は前向きに捉えている。

富山県立大学の岩本先生にCDO補佐官として入っていただき、滑川市のデジタルに対する取り組みは物凄く進んだ。

表で見ると物凄く沢山書いてあり、沢山進んでいるように見えるが、実はまだまだ「2、3箇所やりました」とか、「導入に取り組みます」という状況のものもある。そうは言うものの、何も始まっていないところから、随分と取り組みを進めてくれたと思っている。

でも、何でも幅を広げてやっていくということではなく、足元の市役所のデジタル化と、市民が利用されるサービスのデジタル化は、まず大事だということで進めてきた。地域のデジタル化については、絞って色々と実証的に取り組み、深掘りしていく。こういうことが大事になってくるので、そういう中で、今少し考えているのは、降雪状況のデータを取って、災害対応に取り組んでいくとか、或いはMaaS。やはり高齢者の足は凄く大事だということで、そこら辺を深掘りして取り組んだらどうだろうかとか、色々そういう観点で選んで、実証して取り組んでいくことが大事だと思っている。

デジタルというのはこれからもっと技術が進んでいくので、5年後10年後を考えると、やはりデジタルは目的ではなく手段ではあるが、富山県立大学の岩本先生からは「一時的にデジタルは目的としても良いのではないか」と言われた。

これから手段として大いに活用すべきデジタルを、今の時点では「デジタル化・DX化、スマートシティ」と言って本日もテーマに挙げているが、ある意味で目的化している面もある。兎に角追いつかないといけないということで、それくらいの思いでデジタルは進めていきたいし、皆さまの色々な困りごとや課題というものが正に取り組むべき場所であると思っているので、色々ディスカッションしながら、デジタルのこういったところを特に進めていくかを考えていけたら良いと、感想として思っている。また色々ご支援をいただければ有難い。

座長

他にご意見が無いようであれば、またその立場や場所、タイミングなどで、色々なご提案などが出てくると思うので、そういった時にまたご発言いただければと思っている。